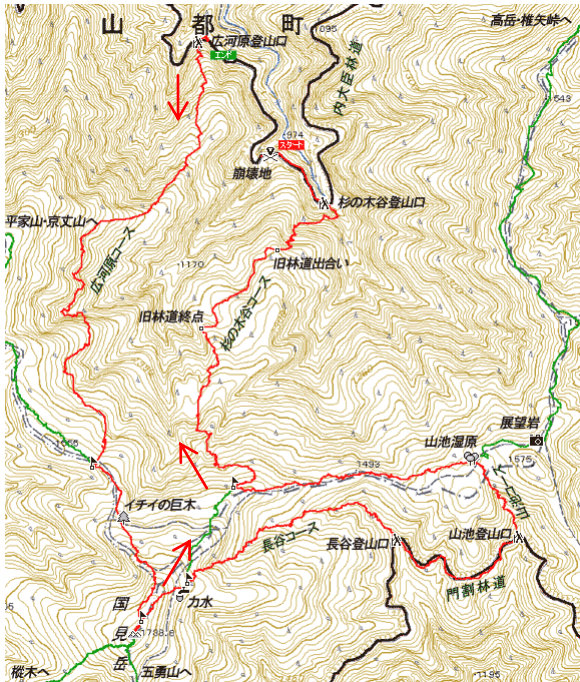


国見岳(大国見山おおぐるみ) 1,739m  
(一等三角本点)九州中央山地国定公園  
ルート図(広河原-国見岳-杉の木谷)HPより



広河原登山口



ヤマシャクヤクの赤と黒の実



H23.9.25 19名参加 (天草山岳会)

1号車-O、T、I、I、N

2号車-K、Kh、Sh、K、Y

3号車-U、F、K、Y、S

4号車-Y、Yh、N、N

9/25 曇 6:05 天草市役所 15名出発, 6:10JA 志柿 2名合流, 6:15 上津浦 1名合流, 7:40 不知火支所 1名合流, 8:43 内大臣橋, 10:00 広河原登山口, 10:12 出発, 13:04 平家山分岐, 13:25 イチイの巨木, 13:53 国見岳山頂, 14:40 下山開始, 15:57 旧林道, 16:45 杉の木谷登山口, 17:14 広河原車着, 18:49 内大臣橋, 19:25 佐俣の湯元湯, 22:00 本渡解散, 参加費 250km2000 円(資料代, 保険代, 高速代, 写真代, 距離割引, 車代還元 5000 円)

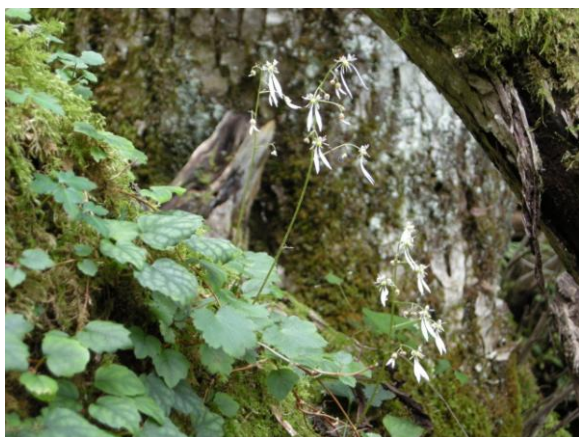
■本渡から 15 名が車 4 台で出発する。JA 志柿で 2 名、上津浦で 1 名が合流した。金土と続いた快晴は過ぎ小雨が降っている。不知火支所で 1 名が合流し 19 名になる。国道 3 号を横断して国道 218 号を通り三本松を右折、緑川ダム湖を右に見て内大臣橋でトイレ休憩。ここから内大臣林道に入り無舗装道路が続く。時おり車の底を打つ。延長十数キロの林道に 1 時間を要して広河原登山口へ到着した。

各人自己紹介をして出発。最初は杉林のなかの急坂をジグザグに登る。やがて左側が広葉樹林になり木肌が赤褐色をしたヒメシヤラが多く目に付く。尾根になるとブナの大木が多くなる。登山道は尾根から左へ山腹を巻きながら高度を上げる。最初の沢にはやや水量が有る。二番目の沢は涸沢。三番目の沢は水量が多い。四番目の沢も水量が多い。

近くにヤマシャクヤクが自生し赤と黒の実が付いていた。ヤマシャクヤクはボタン科ボタン属の多年草で 4~6 月頃に白色の花卉を開く。黒色の実が種子で発芽から開花まで五年以上かかると HP で調べた。環境省のレッドリスト準絶滅危惧(NT)に指定されている。

溪流の近くにダイモンジソウが咲いていた。花卉は五枚で上の三枚が短く、下の二枚が長いので大の字に似ていることから由来する。

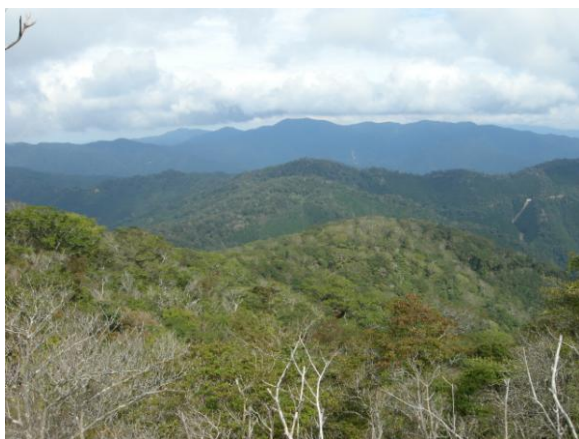
## ダイモンジソウ



国見岳山頂



国見岳から祖母傾山系方面



杉の木谷登山口



ダイモンジソウはユキノシタ科ユキノシタ属で日本全国の山地溪流の近くに自生し様々な花卉の形や色の変化がある。

山腹を回り込んだところに五番目の涸沢がある。六番目の沢は小さく水の多い沢が三本あり下流で合流している。やがてイチイの林に変わり、最後七番目の小沢を過ぎる。この辺りの沢にはベッコウサンショウウオが生息していると文献に紹介されている。ベッコウサンショウウオはサンショウウオ科、日本(鹿児島・熊本・宮崎)固有種で熊本県天然記念物、環境省のレッドリスト絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。

やっと主稜線に出て平家山分岐で小休止。モミノキやイチイの巨木を通過しシャクナゲの群生地が続く。山頂に近くなると樹林が低くなり風倒木が見られシャクナゲが多くなる。ついに国見岳山頂に到着すると広場の北側に祠が祀られ中央に一等三角本点の標石が置かれていた。時間も過ぎていたので急いで弁当を食べ記念写真を撮る。心配された曇天も晴れ日差しがあり満足感が広がる。

山頂から北東方向に祖母傾山系、東側は宮崎県椎葉村、西側は八代市泉町の五家荘で、国見岳を熊本県最高峰とする北は矢筈岳から南へ烏帽子岳までを向霧立越(むこうきったちごし)山地と呼ばれ、脊梁山地に含まれる。

西に雲が見えるので急いで杉の木谷コースへ下山にかかる。樹林の中は暗くなり地図を片手に踏み跡と標識に助けられて無事登山口へ下山する。国見岳の登山道は落ち葉がクッションとなり膝への負担が少ないという印象だった。林道を歩いて車へ帰り着いたところで雨が降り出した。林道を1時間かけて内大臣橋まで下りた時にはすっかり暗くなり、佐俣の湯元湯に入り夜中に本渡へ帰った。

## 【参考文献】

- ① 熊本日日新聞社 熊本の山
- ② 山と溪谷社 九州の山
- ③ 熊本日日新聞社 熊本百名山 (N)